

令和4年度第1回豊明市地域福祉計画推進委員会

豊明市いのち支える自殺対策推進本部 議事要旨

日 時:令和5年2月15日(水)10:00~11:30

場 所:豊明市総合福社会館 3階 大会議室

出席者:10人(うち代理人1名) 欠席者:2人 傍聴者:なし

1 あいさつ

2 議事

(1)豊明市第2次地域福祉計画・第4次地域福祉活動計画の進捗について

・基本施策の実績について

事務局より説明

○質疑応答

(委員)

(意見)

子供関係について2つ。1つ目は、今社会的な問題になっていることで、保育園の入園問題について、保育士の配置基準の見直しや待遇改善が話題になる。大学の教育学部や短大の保育科の志願者も減少しており、人材の確保が厳しい状況が続くものと思われる。そんな中で保育士を増やすのは限界がある。保育士でなければならない仕事に加え、保育士でなくてもできる仕事もやっている現状で、現場は大変だと思う。是非ボランティアの派遣コーディネーター等を検討いただきたい。例えば、運動会前の園庭整備を地域の方にやっていただく。すると、子育てに対して関心も高まるし、保育士さんが保育に専念できる時間も増えるだろうと思う。2つ目に、資料中の権利擁護の中のDVと児童虐待・高齢者虐待について。これについて、早期発見に努めるとなっているが、教育・保育現場との連携も欠かせないと思われる。児童虐待防止法において、市民には児童虐待の通告義務があることと、児童虐待と思われる場合は通告すること。結果、児童虐待でなくても守秘義務違反には当たらないこと。そして、専門職も罪に問われないという規定もあるということも、是非合わせて周知いただきたい。

・重点施策の進捗について

事務局より説明

○質疑応答

(委員)

(意見)

重層的支援の体制が出来上がったということだが、子供が学校に行きたいのに行けない、いじめに遭って学校に行けないという時等に、相談できるところがない。また、中学 3 年生になったときに、ずっと学校に行けていなかったのに、勉強を教えてもらえるところもないので、どうにもならない。学校に行けなくても、どこかでそういった支援をやってもらいたい。ぜひ、計画に入れてもらいたいと思う。

(事務局)

重層的支援体制で取り組む内容は、家庭の中で複合的な問題があって解決が困難になっているケースや、様々な福祉施策の隙間の支援というのがある。豊明市は、他の自治体より少し早く「引きこもり」という福祉の狭間にあるような支援も行っている。今のようなご意見に対しても、地域の課題として、市や社協、地域の人も含めて、施策を考えていきたい。

事務局より説明

※あいさつ運動関連の映像を最後に流す

(2)豊明市いのち支える計画の現況について

事務局より説明

○質疑応答

(委員)

中学校に相談先を周知啓発することや、小学 6 年生の児童に対してリーフレット配布とあるが、これはどういう理由で中学生と小学 6 年生を対象としたのか。

(事務局)

小学 6 年生や中学生は「卒業」で、新たなステージに変わる時に、孤立、孤独に陥りやすいという傾向もあり、この時期に実施している。若年、未成年の方の自殺も増えているという傾向を鑑みて、このように考えている。

(委員)

今年度の主な取り組みの自殺予防強化月間について、3 月に実施ということだが、先ほどの関連で、若年層の自殺の傾向は 2 月に入ってからや、9 月が全国的に多いと考える。自殺予防強化月間についても、確かに 3 月は

卒業や進学の時期で、重点的に取り組むことは効果も高いが、もし可能であれば、子供については、他にも危ない傾向のある時期があるので、ご検討いただきたい。

(委員長)

確かに、小中学生は一つ段階が上がる時と長期の休みが終わった翌月が一番不安定な時期だと言われている。こういったところの体制整備にも関連する内容だと解釈する。

3 その他 事務連絡